

2013年度

事業報告書

(2013.4 - 2014.3)

公益財団法人都市活力研究所

事業の状況

【公益事業1】 産学官の交流連携を促進するとともに人材育成、教育研修を実施することで、産業を振興し、地域社会の活性化を図る事業

1. バイオ・ライフサイエンス分野におけるシーズを育成する事業

● 創薬シーズ相談会

創薬シーズ、創薬基盤技術に対する評価を製薬企業などの専門家が行い、研究開発の方向性についてアドバイスすることによる産学官の交流・連携の促進を支援するため、大阪医薬品協会の協力により「創薬シーズ相談会」を計3回実施した。

	シーズタイトル	シーズ相談者
5/8	腎癌に対する新しいペプチドワクチン	大阪市立大学医学部 准教授 川嶋 秀紀
11/2	ヒト iPS/ES 細胞の品質管理、標準化および選択的除去に有効な新規マーカー抗体の開発	立命館大学 総合科学技術研究機構 上席研究員 川崎敏祐
12/6	新規バイオ医薬ピロール・イミダゾール(PI)ポリアミドの創薬開発	日本大学 大学院総合科学研究科 生命科学 医学部腎臓高 血圧内分泌内科学 大学院医学研究科細胞再生移植医学 教授 福田 昇

2. 創薬分野におけるスーパーコンピューター利用を促進する事業

● インシリコ創薬支援事業

2013 年度に大阪大学が「うめきた」に次世代スパコン「京」と産業界をつなぐアクセスポイントを設置している。ここでインシリコ創薬(スパコンなどコンピュータを活用した創薬)に関する様々な情報の提供・各種相談・コンサルティングなどができる拠点づくりを目指している。今年度より本格的に NPO 法人バイオグリッドセンター関西と協力し、インシリコ創薬に関する相談会、講習会などを開始した。

	タイトル
8/6	分子動力学計算の実習開催
12/12	ベイジアンネットワークの実習開催
2/26	レプリカ交換法の実習開催
3/25	分子動力学 cppmd の講習会

● バイオグリッド HPCI プロジェクト

2012 年度より本稼働をはじめたスパコン「京」に設定された産業利用枠を使って独立行政法人理化学研究所の募集する「HPCI システム利用研究課題」に NPO 法人バイオグリッドセンターが応募した結果、採択され「京」の計算時間の無償利用が可能となった。これを利用して製薬企業 11 社、IT 企業 2 社、京大、産総研などとともに、標的蛋白質と膨大な数の薬の候補物質との相互作用を計算し、候補を絞り込むプロジェクトを推進中である。

① 3000 万化合物と 600 個の蛋白質の相互作用の計算結果を参画している製薬企業に提供した。

② 結合自由エネルギー計算ではキナーゼ 3 つの蛋白質について計算結果と実験値が一致していることを確認した。膜蛋白質の計算を準備中である。

また、バイオ分野におけるスパコン利用促進の取組を紹介するために以下のセミナーを開催した。

	タイトル
9/12	第 27 回スパコンセミナー(東京)
10/2	第 5 回スーパーコンピュータ「京」と創薬・医療の産学連携セミナー
11/24	バイオインフォマティクス技術者認定試験への協力

3. 新技術、新サービスの実現を加速するための事業

- 実証実験プロジェクトの支援

ホームページにて事業概要の案内を行うほか、大阪イノベーションハブの「アクティブシティ研究会」の中で、開発実証の実施者や支援協力者、街の施設所有者や開発事業者、サービス事業者等の実証実験プロジェクトに係る方々に募集案内を行う。

その結果、デジタルサイネージ(1 件)の相談・助言を行った。

4. 技術革新や新たな価値創造を支える人材の育成及び人的ネットワークのあり方について調査を行う事業

(1)人材育成事業

- アーバン・イノベーション・セミナーの企画・開催

産業の活性化に関わる最新の動向を紹介するセミナーとしてアーバン・イノベーション・セミナー(産業分野)を次のように開催した。

	タイトル	共催等	参加
7/4	シリコンバレーの隆盛を築く人材マネジメント	サンブリッジグローバルベンチャーズ	12 名
7/9	クラウドファンディングがつなぐ人と企業の輪	大阪府・大阪府内創業支援ネットワーク会議	35 名
9/10	シリコンバレー流のイノベーション創出	トーマツベンチャーサポート株式会社 株式会社講談社 株式会社アイ・エム・ジェイ 一般社団法人 IMPACT Foundation Japan	70 名
11/7	シリコンバレーとビジネス～グローバルな飛躍を目指す若手起業家へのメッセージ	サンブリッジグローバルベンチャーズ	24 名

- グローバルイノベーション創出支援事業

2013 年 4 月、うめきたに開業した Osaka Innovation Hub を拠点として大阪府が取り組むグローバルイノベーション創出支援事業を ATR、都市型産業振興センター、サンブリッジグローバルベンチャーズとともに受託し、主に国際展開、人材育成、プロジェクト創出事業を担当。新たなものづくりの可能性を探る実証的取り組みや起業志向、グローバル展開志向の主に若手を中心にセミナー等の育成事業を実施した。

	タイトル	内容	参加
7/6,13	ものアプリハッカソン	与えられたテーマのもと、短期間でオリジナル・ガジェット(電子機器)のプロトタイプを完成させるという課題に、チームでチャレンジするイベント	36 名
8/20	池銀キャピタル勉強会～水都魚の交わり	ベンチャー育成にかかわる人を対象にしたセミナー及びベンチャーのビジネスプラン発表会	100 名
8/29	VC 勉強会①	在阪の VC(ベンチャーキャピタル)とともに、大阪の投資環境についてディスカッションを行う	8 名
9/26	セミナー『変革する世界でのイノベーションと技術』	ケンブリッジコンサルタンツのラピッドプロトタイプ作成の取り組み事例紹介	47 名

10/1	起業家育成プログラム Mindset Session①	学生、若手起業家を対象にした起業家マインド醸成のための研修	11名
10/3	VC勉強会②		9名
10/10	セミナー『グローバルキャリアウーマン講座』	女性のグローバルリーダー育成を目指したセミナー	67名
10/21	セミナー『留学生とニュービジネス～大阪経済を牽引するリーダーを目指せ！』	在阪の留学生を対象とした起業、リーダー育成のためのセミナー	10名
10/25	TOMODACHI WOMEN'S LEADERSHIP1	米国大使館の推進する TOMODACHI プロジェクトの一環。女性のグローバルリーダーを育成するための研修	22名
11/7	VC勉強会③		8名
11/12	TOMODACHI WOMEN'S LEADERSHIP2		25名
12/19	TOMODACHI WOMEN'S LEADERSHIP3		25名
1/16	TOMODACHI WOMEN'S LEADERSHIP4		25名
1/16	池銀キャピタル勉強会②		92名
1/21	起業家育成プログラム Mindset Session②		61名
1/21	VC勉強会④		7名
2/19	国際イノベーション会議	国内外のイノベーターを招聘し、世界の産業の潮流について発信するとともに、国内外の起業家によるビジネスプランコンテストを実施	307名
2/21	TOMODACHI WOMEN'S LEADERSHIP5		20名
3/12	VC勉強会⑤		9名

● ジョブスタディ・コラボ・かんさい

昨年に引き続き 10 月より 1 月末までの 2 ヶ月間、次代の産業界を担う若手育成として、近畿経済産業局、ジョブスタディ(企業コンソシアム)と連携し、大学生向けイベントとして講演会 & 座談会を実施した。10 月 4 日にキックオフとしてガイダンスを行ったほか、9 月から 11 月にかけて 8 回の講演会 & 座談会を開催し、延べ 400 名超の参加を得た。

● バイオ講座 '13

バイオ分野での起業をめざす人やベンチャー支援機関の人を対象とした、事業計画書の作成方法を修得するグループワークショップの講座を開講した。受講生がほぼ毎回プレゼンを行い、講師による指導を受けるというスタイルで全 5 日間のコース。成功したベンチャー企業の事業計画書を事例として取り上げ、その要点解説を行い、起業にあたっての実践的な講座となった。最終日には、講演会および受講生によるビジネスプラン発表会を行い、講師より講評を得た。講師は起業支援会社の代表を務め起業支援については経験豊富であり、起業へ向けての実践的な指導講座となった。

	タイトル	内容
10/25	「起業における要点」	起業前にすべきこと、手順など重要ポイントの解説
11/15	「事業プラン」	事業内容、形態、現状と展望、強みと弱み
12/20	「資金繰り・資金調達」	開業費用、事務所経費、事業経費等、融資、助成金等

2/28	「法人設立」	設立に関する事項、事業計画書の完成
3/20	「ビジネスプラン発表会」	講演「オープンイノベーションで大切なこと」、事業計画発表会

● スーパーコンピューティング・コンテストの開催

大阪大学、東京工業大学との共催により、高校生・高専生を対象にした高いレベルのプログラミング技術を競うコンテストを開催した。本年度は、本選を8月20日～8月24日に開催し、全国から予選を勝ち抜いた21チーム59人が東京会場と大阪会場に分かれて参加。東京工業大学のスーパーコンピュータを用いて課題を解くプログラムを作成し、その解答の正確さ、速さを競った。

(2) 調査研究事業

● バイオメディカルシンクタンク

創薬や医療分野に特化したオープン・イノベーション・モデルの導入促進のための専門的な研究会を主宰し、創薬支援のための拠点形成に向けた、ベンチャー向け経営支援活動のあり方等について隔月での討議を行った。また、10月22日開催の日本バイオインフォマティクス学会のシンポジウム(第15回バイオメディカル研究会)、3月18日の同学会シンポジウム(第16回バイオメディカル研究会)で、最先端の研究者を講師として招き、問題点を討議する研究会の企画運営を担い情報交換を行った。

	タイトル	討議内容
4/25	・次世代創薬の方向性 ・創薬支援拠点のイメージ	薬業のグローバル化とオープンイノベーションへの適応 創薬シーズ相談会、製薬企業若手研究会の企画検討
6/4	・HCPI プロジェクト ・産学連携研究会 ・未来創薬研究会	同プロジェクトの今後の展開の事例研究 KENELの発足(東大 TLO との連携) 趣旨および議論の方向性について討議
8/19	・ベンチャー支援 ・事業報告	大阪でのベンチャー支援策および方法について討議 創薬シーズ相談会の現況報告
10/22	・第15回バイオメディカル研究会※	テーマ「トランスレーショナルメディスン」
11/18	・起業支援	経営相談事業について検討
1/23	・バイオ講座 ・未来創薬研究会 ・起業支援	進捗報告 テーマ項目について意見交換 進捗報告
3/18	・第16回バイオメディカル研究会※	テーマ「臨床ビクデータの利用」
3/27	・研究会報告 ・バイオ講座'14 ・起業支援 ・未来創薬研究会	第16回バイオメディカル研究会開催報告 内容および広報の検討 外部団体との連携方策の検討 進捗報告

(※主催は日本インフォマティクス学会、弊財団は企画運営を協力)

● 未来創薬研究会

「近い将来の創薬研究のありかた、日本が世界をリードする創薬研究を行うために今必要な事、改善すべき問題点」をテーマに議論する研究会を1月に発足した。主催は日本バイオインフォマティクス学会と弊財団であり、大阪医薬品協会にメンバー推挙などの協力を得ている。メンバーは製薬企業および大学の研究者、大阪府、医薬基盤研究所、科学技術振興機構、弁護士、弁理士、会計士などで構成した。アカデミアだけではなく、製薬企業の現場の声を吸い上げ、製薬企業やベンチャー、アカデミア各々の連携や役割分担などオープンイノベーション化の推進策を探り、創薬産業に貢献する。特に創薬分野における近い将来の革新的技術およびその方向性などを探り、次年度それを提言としてまとめていく。(今年度は1回開催。今後年4～5回開催予定)

【公益事業2】まちづくりを推進し、都市の活性化を図る事業

1. これからのまちづくりのあり方についての調査研究

● 都心戦略検討会

新たなまちづくりの調査研究として、学識経験者、行政、企業などのメンバーで構成される研究会を開催している。本年度は国の動向や他都市の先進事例を参考にしつつ、大阪において今後必要となる施策や活動の芽出しを行うとともに、この趣旨に沿うケーススタディを設定して取り組んでいる。下記の通り検討会を6回開催するとともに、公共空間の利活用に関するケーススタディを推進するため大阪大学との共同研究体制を軸としたワーキンググループ A を組成して調査研究を進めた。

<都心戦略検討会の進捗>

第1回(8/21)	平成 25 年度の検討会の進め方について
第2回(10/17)	シンポジウム(都心戦略検討会拡大バージョン) すまい・まちづくりトーク第2回「大阪における都市の再構築戦略を考える」
第3回(11/5)	官民連携の現状と問題点
第4回(11/26)	新宿副都心エリア環境改善委員会の取り組み
第5回(2/24)	御堂筋・なんば駅前の望ましい利活用のあり方について
第6回(3/24)	ワーキンググループA検討状況報告、検討内容の取りまとめ

<ワーキンググループ A の進捗>

事例調査 (10/27・28)	札幌市における公共空間の利活用の実態を調査 ・札幌駅前通まちづくり株式会社 ・札幌大通まちづくり株式会社
第1回(11/5)	スケジュール及びアウトプットイメージの確認 御堂筋社会実験における歩行者量調査及びアンケート調査計画(イメージ)
事例調査 (11/13・14)	高崎市及び港区、新宿区における公共空間の利活用の実態を調査
社会実験 (11/23・24)	御堂筋における歩行者量調査及びアンケート調査の実施
第2回(11/26)	視察都市の取組報告
第3回(2/24)	御堂筋社会実験における調査結果報告
事例調査 (3/11・12)	国土交通省道路局ヒヤリング 港区、新宿区、横浜市における公共空間の利活用の実態を調査
都心戦略検討会 (3/24)	報告書(案)を説明、ディスカッション

● 梅田インフォメーション推進検討会

様々な主体が運営する梅田の案内所が連携してサービスの向上を目指す活動を支援している。案内所業務の課題に対応するため、情報収集を行った。全体的な情報の把握と整理が必要なもの(バスのりば案内、鉄道路線図、金融機関など)のマップと詳細情報リストを4月に作成し各案内所に配布するとともに、年2回更新を行っている。

● 郊外まちづくり

地域における健康・スポーツの活動の推進についての実践的な調査研究として、彩都地区における健康・スポーツをテーマとしたまちづくりについて、本年度も引き続き彩都(国際文化公園都市)建設推進協議会、アスリート団体とともに取り組んでいる。4月21日(日)に、彩都人口1万人到達記念 彩都健康スポーツ

フェスティバルを彩都凸凹リレーマラソン実行委員会(彩都(国際文化公園都市)建設推進協議会ほか)主催、医療法人友誼会 彩都友誼会病院、茨木市陸上競技協会と当財団の協力の下で開催し、リレーマラソンに約 200 名が参加した。

また、大都市近郊エリアの市町村に存在する郊外住宅地が今後人口減少・高齢化することにより生じる問題への対応方策を調査研究するため、都市住宅学会との共同研究「駅から始まるコンパクトシティ形成」をテーマとした研究会を立ち上げている。

第 1 回(11/21)	研究会の趣旨、進め方の説明 「駅前マンションに高齢者が集まっているか?～西神ニュータウンの場合～」
第 2 回(12/19)	「UR西日本支社NTの変遷(歩行者系空間の変遷を中心に)」 「商業集積(ショッピングセンター)の変遷」
第 3 回(1/30)	「南千里丘の街づくり～市民の立場から～」 「大阪都市圏の郊外住宅地における住民の住環境に対する評価と意識等」
第 4 回(2/13)	「UR西日本支社NTの変遷」 「阪急電鉄*駅比べ」
事例調査(2/28)	京王電鉄(株)、(株)ピタ 視察、ヒヤリング
事例調査(3/3・4)	越谷レイクタウン、やぼろじ、(株)御用聞き、(株)コプラス 視察、ヒヤリング
第 5 回 (3/7)	論点整理
第 6 回 (3/25)	研究課題の整理

● 観光まちづくり

関西に留学する外国人学生による「Kansai Tourism Supporters」を立ち上げ、観光プロモーションの現場に参加するとともにその様子を SNS 等で情報発信した。

実施	内容	主催者
10/23	We Love Japan Tour 2013	Japan-guide.com
11/10	Rokko Meets Art 2013	(自主調査)
11/23	Snowman Festival 2013 オープニングイベント	うめだ地区エリアマネジメント実践連絡会
12/7	受入環境整備事業(泉佐野)	近畿運輸局
12/22	大阪城 3D イルミネーション	(自主調査)
1/18	「生きた建築ミュージアム」見学ツアー	(自主調査)
1/31	グランフロント大阪 春節イベント	グランフロント大阪
3/15	「京都・西の観光」魅力発掘ツアー	京都・西の観光振興会議

2. まちづくりに関する情報発信

まちづくりに関する調査・研究の成果発表や様々な話題の提供を目的として、下記の通りセミナーやメールマガジンによる情報発信を行った。

実施	タイトル・内容	共催等	参加
10/1	研究交流セミナーこれからの郊外、住まいと鉄道「価値創造による郊外住宅地の再生を目指して」	都市住宅学会 関西支部	173 名
10/4	グランフロント大阪 視察会(第 1 回)		11 名
10/17	すまい・まちづくりトーク第 2 回「大阪における都市の再構築戦略を考える」	都市みらい推進機構	135 名
10/18	グランフロント大阪 視察会(第 2 回)		11 名
11/8	グランフロント大阪 視察会(第 3 回)		10 名
11/19	専門セミナー「都市と大学の将来を考える」		103 名
1/8	UII まちづくりレター「官民連携の都心をめざして～姫路駅北		約 2,000 名

	駅前広場整備のあゆみ～」		(メール)
2/5	アーバンインフラテクノロジー推進会議「技術研究発表会及び講演会」	(主催)アーバンインフラテクノロジー推進会議(共催)当財団	140名
2/19	UII まちづくりレター「札幌駅前通まちづくり株式会社の取り組み～人の息吹が感じられる都心のビジネス街を目指して～」		約 2,000 名 (メール)
4/4	UII まちづくりレター「大阪長屋を活かすまちづくり・・・大阪市大豊崎モデルを中心に」		約 2,000 名 (メール)

【その他事業】 産業とまちの活性化のために実施する公益事業をより有効なものとするための補助的事業

1. NPO 法人バイオグリッドセンター関西の運営支援

5月25日(土)の第10回総会およびバイオグリッド研究会開催をはじめ、事務局として、バイオ研究者や製薬企業・ICT・バイオ関連企業関係者の交流事業やプロジェクトメイキングの支援を行った。

2. 創薬バリューチェーン・プロジェクトの支援

コンピュータを活用した創薬の研究開発プロジェクトである創薬バリューチェーン・プロジェクトを引き続き推進し、肺がんや前立腺がんの抗がん剤の開発プロジェクトを支援した。また、今後の研究体制のありかたについて技術研究組合の利用について検討した。

3. スマートウェルネス研究会の運営支援

本研究会は、大阪大学大学院医学系研究科と密接に連携し、スマートウェルネス領域に関するセミナーや討議などを通じ、新たな事業テーマの発掘や最新関連情報の収集を行うことを目的として、7月25日に発足され、事務局として企画運営を担っている。今後、企業においては、各々の研究開発および事業テーマ毎に、関連する企業同士が任意に分科会を組織し、新しいビジネスモデルの創出や新たな機器の開発を目指す。

実施	タイトル	内容	参加
10/2	第1回スマートウェルネスオープンセミナー	・メディカルプラネット構想 ・MEJの事業紹介と今後の展開 ・スマートウェルネス研究会の紹介	113名
12/10	第2回スマートウェルネスオープンセミナー	・日立の粒子線治療事業への取り組み ・粒子線がん治療 ・養生生活支援ビジネスの可能性	77名
2/20	第3回スマートウェルネスオープンセミナー	・癒し養生生活支援サービス分科会 ・オリイ研究所が目指すコミュニケーションロボット社会	50名

【法人管理】 公益法人としての適正な運営

理事会を3回、評議員会を1回開催し、公益法人として適法運営に努めた。